

テーマ

大切にしたい「自分事」にする機会云

西ヶ原小学校
第六学年
児童

I このテーマの記事を選んだ理由を書いてください。

僕はあまり水泳が得意でないので、プールの授業のある日は雨か、気温が高くなって中止にならないかな、と思ってしまうこともある。そんな時、プールの授業がなくなるかもしれないという記事を見た。別の日には、4月に受けた学力テストとアンケートの結果が公表され、小学生と中学生で理科に対する気持ちの違いがあるという記事があった。

どちらも僕が学校で体験している事の記事なので、興味と親しみがわいたから。

II 比べる記事のそれぞれの内容について分かったことを書いてください。

①について近頃、体育の学習指導要領で必修となっていて、水泳の授業で実技を取りやめて座学にする小学校が増えている。熱中症のリスクやプールの老朽化・維持費の高騰、生徒が水着を敬遠する傾向など様々な理由がある。けれど、海や川で溺れた時に命を守るためにも水泳の実技授業は大切であり、座学だけでは限界がある。

②について全国学力テストでは、中学生は理科の化学反応式や熱量などに関する問題に苦戦し、「理科が好き」とした割合が小学生より顕著に低かった。これは、小学校では生物の観察など楽しんで学ぶ授業が多いが、中学校は抽象的な概念や目に見えない現象について理解させられる学習が増えたことによるものが原因と考えられる。

①と②を比べて分かったこと、自分で調べてみたいこと。①では、実技がなくなることにより事故にあったときの技術、思考力、判断力が育たない。②では実験なしで法則や物質の成り立ちなど抽象的なことを理解しなければならぬので、理科を好きになれないというマイナスが書かれていた。どうしてマイナスになってしまうのか、プラスに変わることはないのであるだろうか、考えてみようと思った。

III テーマについて、自分の考えや他の人と交流をして気付いたこと、調べたこと、提案などを書いてください。

僕は水泳が苦手であまりはやりたくないと思うけど、実際にプールに入ると意外に楽しかったりする。学校では着衣泳の授業もあり、これを受けたことで溺れたときにするべきことや工夫などを頭より身体で覚えることが出来た。理科の授業では、教科書を見るだけでなく、花や虫を育てたり、放課後には屋上で観察会をするところもある。そういう体験をした後に教科書を見ると、なぜか面白く感じる。どうして、自分が体験する前後でその事に対する気持ちが違ってくるのか。それは体験したことが「自分事」になったからだと思う。自分の事だから興味や関心が出てくるし、「これはどうかな」「これではいけないな」など、色々な事も考ええる。

「自分事」にすると、自分の世界が広がってくる。僕の学校には、理科という素晴らしい授業があり、地域の大人が先生となり色々な事を体験しながら教えてもらえる機会がある。そこで学んだ事の関心はぐんと高くなる。「自分事」になったのだ。これが嫌いな無関心というマイナスが好き、関心があるというプラスになる瞬間ではないだろうか。

学校生活は色々な体験の宝庫であるけれど、それが僕が選んだ新聞記事のように少なくなってしまうのは、「自分事」にする機会を失うように感じる。でも機会には毎日の生活にも転がっている。お手伝いをしたり、自分から進んで新聞やニュースを見聞することで「自分事」を増やす機会になるかもしれない。自分の世界を広げるため、そんな機会を大切にしたいと思ふ。